HOKKAIDO UNIVERSITY

| | |
|---|---|
| Title | 医系学生への情報探索実態調査 ： 押しつけの「支援」をしないために |
| Author(s) | 川村, 路代; 松尾, 博朋; 坂本, ゆう子 他 |
| Description | 第32回医学情報サービス研究大会（札幌, 2015年7月18日-19日）ポスターセッション（19日）<br>http://mis.umin.jp/32/program/index.html#both01 |
| Issue Date | 2015-07-19 |
| Doc URL | https://hdl.handle.net/2115/59760 |
| Type | conference presentation |
| File Information | P-08-abstract.pdf |

Hokkaido University Collection of Scholarly and Academic Papers : HUSCAP

# 医系学生への情報探索実態調査

## －押しつけの「支援」をしないために－

川村路代，松尾博朋，坂本ゆう子，笠井美由紀
北海道大学附属図書館

1. 背景・目的

図書館職員は大学のカリキュラムや教育内容を理解し，学習者の視点から学習支援をデザインできているだろうか？　北海道大学附属図書館情報リテラシー教育支援ワーキンググループ医系分科会は，学生の学びの文脈に即した学習支援の実現の手がかりとすべく，医系学生へアンケート・インタビュー・情報探索行動の観察調査を行っている。調査結果からわかる学生の特徴および多様性を報告する。

2. 調査方法

本学の医系学部に所属する学生に協力を依頼し，下記の調査を行った。

2-1. 事前アンケート

普段の学習の様子，学習場所，論文の検索経験，検索方法の修得経緯，本学や他大学図書館・室の利用経験，ICT の利用状況などを尋ねた。

2-2. インタビュー

事前アンケートの回答の詳しい背景や図書館への意見・要望を聞き取りした。

2-3. 行動観察

情報探索課題（例・「血液型が O 型の人は蚊に刺されやすい」と言われることがあるが，その根拠となった実験や論文を挙げて真否についての意見を論ぜよ。）を与え，学生の情報探索行動を観察し，PC 画面録画ソフトとビデオカメラで記録した。１題ごとに振り返りを行い，学生の行動の要因を探ったほか，図書館員による解答を例示した。

3. 調査結果中間報告

- ほとんどの学生は探索行動を Google からスタートさせ，図書館ウェブサイトの利用は少ない。
- アクティブ・ラーニングが注目されているが，医系学部では国試合格のための一貫性のあるカリキュラムが組まれており，従来の講義形式の授業の比重が高い一方でレポート課題やグループワークは少ない。学生が図書館に求めるものは静寂な学習空間で，ラーニング・コモンズへの需要は顕在化していない。
- 教科書や参考書の自費購入，ILL の有償での利用，所属学部以外の図書館や研究室蔵書の利用には，一定のハードルが見受けられる。

さらに調査・分析を続け，結果を当日のポスターで報告したい。